

## 第3回港湾工事におけるプレキャスト工法導入促進検討会 議事概要

日時：令和5年3月9日(木)10:00~12:00

場所：(一財)港湾空港総合技術センター会議室(Web会議併用)

### 1. 主な議事

○事務局より、アンケート結果に基づく評価手法による試算の結果、プレキャスト導入マニュアル(案)等について説明を行った後、委員による意見交換を行った。

### 2. 主な意見

#### 【検討スケジュールおよび今後の展開について】

○Type1については設計済みの工事の場合も試行対象としていただきたい。

○Type2について、打ち工法の工事すべてが対象か。また、その実施時期は令和5年度第2四半期からか。

○令和5年第2四半期スタートとした場合、設計した業務については最短で令和6年度の試行工事となるのか。また、三者会議で設計変更となることもあり得るのか。

#### 【マニュアル案について】

○現場条件からPCaが有利という実例や意見を地整局から聴取していただきたい。

○費用の算定法について、費用の比で点数化すると鹿島の事例のような場合は、点数差が大きくなりすぎるのではないか。

○プレキャストにはオンサイト製作あるいは工場製品があり、工場製品となれば契約体系も変わるのでその点を明確にし、検討フローの条件整理における調達条件にも工場製品という点も含める方が良い。

○検討フローのVfMによる評価結果により採用する工法の流れを示すこと。

○評価項目の「⑦第3者への影響」は、工期短縮というよりも地域環境への適合性と捉えてはどうか。

○標準配点について、「③構造的」の損傷のしにくさは、品質の信頼性にしてはどうか。

○適用可能なプレキャスト技術はどのようなロジックで選定したのか。

○「②省人化、省力化」の小項目の熟練工の内容に違い(P.10とP.14)があるので整合させること

○配点については標準値として示すことで良いが、地域性や構造物ごとに特性があるので地整局あるいは事務所単位で今後見直す必要がある。

○マニュアルの用途と対象範囲について、「施工段階でも適用可能」という表現は消極的に捉えられるので積極的な表現に変えていただきたい。

○マニュアルの用途と対象範囲には「現場条件」と記されているが、検討に当たって整理する条件に「現場条件」がない。現場条件には、環境条件、調達条件、施工条件が含まれていることを示

す方が良い

- 「現場条件から PCa 有利となる例」の中で、環境条件に示される潮位差（潮間作業）の例が含まれていない。
- 評価手法として VfM を標準とするとした根拠の文献をマニュアルの参考として記載すること。
- 基本設計の段階で不明の評価項目（小項目）について、地整局の意見を聴取すること。
- 設計者に負荷がかからないよう、どの段階（基本設計、詳細設計）で検討するのか、また、条件等の情報提供について発注者側で整理しておく必要がある。
- 評価項目の構造的性について、設計の際にすでに確認済みの項目を再度評価するというのは気になるので、例えば、確認済みではあるが、より満足していることを評価するなど表現に工夫が必要。
- 省力化・省人化に関しては重要な項目なので、現場からフィードバックして適切に見直す必要がある。
- 「構造的性」という表現はわかりにくいので、「構造物の品質」という表現にしてはどうか。
- 評価項目（大項目）の配点ゼロの場合は、他の重要項目に割り振るのではなく、50 点になるよう全体に割り振ることも考えられないか。
- 評価項目の効果の有無について、両工法ともに「1:効果あり」になるケースもあるうのか。
- 配点の見直しで地整局の意見を聴取する際に、「明らかに PCa 有利」の事例があれば評価点を算出して事例を集めると良いと思う。
- マニュアルでは働き方改革と労務環境の改善を打ち出しているが、配点に反映されているのか確認すること。
- ⑤維持管理に「補修のしやすさ」とあるが、新設ではおそらく補修を前提としておらず、③構造的性の長期耐久性と重複しているのではないかと。再度検討が必要。
- PCa 工法の導入検討を実施する業務については仕様書にその旨を明記していただきたい。また、業務として検討する際に配点根拠をまとめるための作業量が増すので、仕様書の中で整理すべき条件を示していただきたい。
- 参考資料-2（VfM 試算結果）は VfM の妥当性を示す情報なので、公表できる段階で参考として確認できるようにすることと、データの蓄積をお願いしたい。
- 提示の配点は北陸局のものをそのまま参考にしたのか。
- 設計段階と施工段階でマニュアルを利用するのであれば、それぞれで使い分けできるよう表現に工夫が必要と思う。

以上